

議員と参加者の交流・意見交換

小暮千秋	斜里町議会議員
佐々木百合	北広島市議会議員
宮武祥子	登別市議会議員
春日隆司	下川町議会議員
西科純	議会技術研究会共同代表
藤本光行	栗山町議会議員
渡辺三省	議会技術研究会共同代表

報告1

まもなく4年、議員活動を振り返って

斜里町議会議員

小暮千秋

斜里町議会議員小暮千秋と申します。私は二〇一九年に初当選したのですが、このような機会をいただき、議員になって以降を振り返る貴重な機会となりました。私の経験が皆さんのお役に立つか分かりませんが、参考になればうれしいです。今日ははじめての議員活動として、①なぜ議員になろうと思ったのか、②不思議！はじめての選挙、③困惑！はじめての議員活動、④これから、どうする？、⑤まとめの五つに分けて話していきたいと思います。

1 なぜ議員になろうと思ったのか

議員になる前の私は、主婦であり母親で児童館職員をしておりました。その傍らで民生委員・児童委員、各協議会や審議会の委員も務め、プライベートでは読み聞かせサークルやおもちゃコンサルタント、木育インストラクターとして、講座やイベントの企画など公私ともに忙しくも充実していました。

そんな私がなぜ議員になろうと思ったのか。二つ理由があり、一つ目は第六次斜里町総合計画策

定委員の経験です。当時、斜里町では自治基本条例が制定され初めての総合計画策定でした。まわりの主役は町民であるという考えの下、町民委員と行政委員が一から作る計画として部会も立ち上げ、夜遅く議論するなどして二年間かけて計画書案を作成しました。委員長が町長に提言書を手渡すときに感動したのを今でも覚えています。

二つ目は第一部でも出ていた議会モニターになったことです。斜里町議会は二〇一五年の選挙が無投票だったことで、危機感を覚えた議会は「議会のあり方調査特別委員会」を発足させました。そこでは議員定数や報酬、なり手不足の課題を議論していたのですが、議会モニター制度を導入することになり、当時芽室町議会事務局長だった西科さんに斜里町で講演いただいたことを覚えています。

この議会モニターの経験が私の背中を押した直接のきっかけだったと思っています。それまでいろいろな活動をしてきましたが、議場がどこにあるかも知りませんでしたし、もちろん傍聴も行ったこともありませんでした。ただ、議会だよりだけは目を通していました。

また、斜里町出身ではない私は、議員で名前と顔が一致するのはほんの数人、他は何だか怖そうな印象でしたが、議員モニターを二年間務め、議員と交流することで、決して怖い人たちではなく、議員の仕事も面白そうだなと感じるようになりました。私がそうだったように今でも議会と距離が遠い方はたくさんいる。そうした人たちの声を届けたい。政策提言もしたい。議会と町民の距離を近づけたい。そして議会改革もしたいと考えるようになり、立候補を決意しました。

2 不思議！はじめての選挙

ただ、私は選挙を手伝ったこともありませんが、政党や組織にも属していませんから何も分かりません。後援会？公職選挙法って何？仕事はどうすればいいの？など、分からないことばかりです。一つひとつ壁にぶつかっては先輩議員に聞いたりしました。

後援会は親しい友人六人で結成しましたが、全員下素人ですから、ブレーンなんていません。児童館の仕事は役場職員の立場、現在で言う会計年度任用職員だったので退職しました。民生委員・児童委員も法には触れないけども、誤解を招く恐れがあるということで公職的なものは全て辞めました。

何より困ったのはお金がない、そして人手がないことです。少し前に話した後援会のメンバーも

みんな主婦で小さな子どもがいたり、仕事をしていたりする人たちです。結局、仕事を辞めてフリーな私が一番動けるという状態でしたから、「地盤なし、看板なし、かばんの中は一〇万円の小暮千秋です」と言って、一人でチャレンジできる選挙に出たわけです。

事務所は自宅とし、ポスターやパンフレット、看板は全て手作りしました。選挙カーもスピーカーを付けて、名前は一〇〇均で買ったマグネットシートで作り、車体に貼り付ける最低限なものとし、ウグイス嬢も自分でやりました。事前に小さい子ども持つ親から「寝た子を起こすことはやめて」と言われていたので、名前の連呼はせず、代わりに誰もいないまちなかで辻立ちを一〇〇回しました。

どうやら、周りの目が気になるから選挙カーが通っても家から出て来られないそうなので、田舎の選挙はどこでも同じようなことがあると聞きました。後から「家の中で応援していたよ」とか「投票したからね」と言ってくれました。こうしたことも分かったので、無理に組織票を集めることを止めました。なので、後援会名簿は二〇〇人から三〇〇人程度しかありません。

結果は四位で当選しました。当時の有権者数は九六〇八人、投票率は七〇・四三％で、六五四票だったのですが、正直誰が入れてくれたか未だに分かりません。もともと、新人は期待票で入れてくれることが多いそうです。なので、次の選挙は

そう甘くないと思っています。

会場の皆さんには「はじめてのせんきよ」と書かれた写真のスライドをお見せしていますが、テレビ番組のはじめてのおつかいをイメージして、選挙が終わった一週間後くらいに町民に向けた報告会を開催した際に配布したチラシです。素人集団が考えた選挙スタイルの報告と一〇万円選挙の決算報告も行いました。

一〇万円選挙を乗り越えたことで町民の方からの反響も大きく、また北海道新聞夕刊コラムに記事を書いていただいたり、本日の講座主催者である北海道地方自治研究所が発行する『北海道自治研究』にも原稿を書かせていただく貴重な経験も得ました。

3 困惑！はじめての議員活動

いざ議員になりましたが、議員の仕事は何も分かりませんでした。もちろん、知識として定例会、臨時会、委員会の活動は分かりますが、議員個人が普段何をして過ごしているか全く分かりません。いろいろな人に聞きましたが、人それぞれということを知り、自分がどういうことをしていきたいのか、あるいはできるのかといった自分らしい議員像を模索するしかないな、と結論づけました。

議員になる前から続けていたサークル活動やボランティア活動は継続し、日々の議員活動はSNSで、公のことも個人的なことも発信しています。

定例議会毎に「まち育ニュース」を後援会発足後から発行しています。また、会派ではありませんが、町議会議員であれば誰でも入れる政策グループ「斜里町政研究会」に所属して、議会報告会「ちょこつとトーク」を実施しています。議会全体としては、自治会連合会の方々と年に一度、報告会・懇談会をしています。町民向けの報告会はそれしかありませんので、誰でも気軽に参加できる開かれた報告会になっています。

先ほど、政策提言をしたいので議員になろうと思ったと話しました。これは議会モニターの時に「これからは議会や委員会からの政策提言ができる議会をめざすべきだ」という議論がきっかけなのですが、実際のところは難しく、議会合意できるところまでは行くのですが、最終合意ができない。現時点で唯一できる政策提言は個人の一一般質問です。質問を考えるのは大変ではありませんが、九月一四日からの定例会も一項目だけですが質問する予定です。

4 専門議員か兼業議員か

議員活動と関係しますが、専門議員か兼業議員のどちらがいいのかについて話をしたいと思います。議会モニターをしているときに、「これからは町村議員と言えども、専門性や資質を高め、その代わり市議会議員並の報酬をもらってもいいのではないか」という議論がありまして、当時の私は

そういうものかな、程度にしか感じていませんでした。実際議員になってみると、なかなか専門議員として専門性を高めるのは難しいと感じています。斜里町議員一三名中、専業は七名で兼業は六名、うち自営業・会社員などが四名、団体職員一名、パート一名です。このパートは私のことです。私も一年目は、議員がどのようなものか分からなかったので専業議員でした。二年目はコロナ禍となり、時間ができたので様々なセミナーに参加して勉強し、三年目には人手不足の障がい者施設から声をかけていただき、パートを始めました。もちろん議員活動がメインですから、急な委員会が入ることなどがあるかもしれませんが条件で一年ほど勤務しました。その後、その施設は正規職員が採用されたこともあり退職し、保育士資格を持つていたこともあって、現在は放課後等デイサービスでパート勤務しているところです。

議員活動と仕事が両立できるか心配でしたが、実際にやってみると生の町民の声を拾うことができると実感しました。コロナ禍ではいろいろな活動がストップしましたが、同時に町民からの声を聞く場も激減し、孤独も感じました。それが仕事をすると、職場でいろいろな話を聞かせてもらいますから、孤独も少し紛れたという状況です。

5 これからどうする？

これからの私ですが、「地域密着型多機能議員」

になろうと思っています。というのは、人口減少が進む地域で議員専業は勿体ないと感じているからです。自分のスキルを生かし暮らしや生活を変えずに議員を兼業できるとなれば、もつとなり手が増えるかもしれません。例えば、スーパーやコンビニで働きながら議員をやる。こうした人が増えてもいいのではないのでしょうか。

さらに議員としてのロールモデルも必要ではないでしょうか。私のような議場がどこにあるかも分からなかった人が議員となることで、議員・議会を身近に感じてもらえるようになりますし、小暮さんができるなら私もできると思ってもらえるようになればという想いで活動しています。

6 私が求めていた議会改革は進んだのか

議会改革もしたいと考え議員になりましたが、斜里町議会は二〇一九年度から通年議会になりました。また、委員会活動も活発化し、オンライン委員会も始まりました。タブレットが導入され、ペーパーレスに向けた動きも進んでいます。こうした議会改革は進んだ一方で、今日終わらなかった委員会を来週やりましょうということも出てきて、予定が立たないが増えました。そうなる兼業での活動は難しいかと感じています。そして、それ以外の議会改革が進まない原因は議会が一丸とならない難しさ。これが一番の課題だと考えています。

おわりに

議員になってみて感じたのは、「見るとのやるのでは大違いだった」ということです。一般質問も簡単そうに見えましたが、やると緊張しますし、いっぱい勉強して臨まなければなりません。ただ、多様な議員が生まれることで議員への評価も変わるはずだ、と思っています。私がそうだったよう

報告②

これから議員をめざす方に伝えたいこと

北広島市議会議員

佐々木 百合香

様々な活動から市議とつながり立候補へ

今日はお招きいただきありがとうございます。北広島市議会の佐々木百合香です。これから議員をめざす方に向けてということで、私でいいのだろうか、という不安もありますがお話をさせていただきます。

簡単に自己紹介をさせていただくと、私は一九七九年洞爺湖町（旧虻田町）生まれです。大学三年生の二〇〇一年に結婚、長女を出産したため休学。二〇〇四年に金沢工業大学工学部を卒業し、

に、知らないことは怖いことですから厳しい見方になってしまいますが、お互いが歩み寄る、わかり合うということで、議員への評価も変わると考えていますし、これがなり手不足の解消にもつながると信じています。

私はこれからも悩みながら自分らしい議員像をつくって頑張っていきたいと思えます。これで私の報告を終了します。ご静聴ありがとうございます。

△こぐれ ちあき▽

その年の春に北広島に転入しました。その後は主婦をしていましたが、二〇一一年の東日本大震災、原発事故によって子どもの食べるものが心配になり、北広島市に対し給食の放射能汚染を検査してほしいと要望を出しました。その際に話を聞いてくれたのが市民ネットワーク北海道の田辺ゆう子市議でした。

二〇一四年の統一地方選では、市民ネットワーク北海道から田辺さんと新人の鶴谷さとみさんが立候補することになり、私も選挙をお手伝いしましたが、当時は子どもが小さかったため、深く関われませんでした。市民ネットワーク北海道は、選挙をカンパとボランティアで行っており、任期

も二期八年、最長三期一二年と制限しています。私は「四年後なら子どもが小学校に入るのので今より手伝えるようになる」と考えていたのですが、田辺さんや鶴谷さんと一緒に様々な活動をしていく中で、引退する田辺市議から「次はあなただと思っている」と切りだされました。地域での候補者選挙結果を受け、家族の理解も得られたので立候補することになりました。

新人議員になってとまどったこと

当選後、あちらこちらで「がんばってね」と言われました。ただ、何をすれば頑張ったことなのか。どこに走り出せばいいのか自分でも分からず、悶々としたことを今でも覚えています。

また、当選後に新人議員研修というのがありますが、会場には総合計画や各種計画に関するきれいに整えられた資料がおかれていて、これは大変なところに来てしまったと思えましたね。ただ、議員として活動してある程度経つと、新たな計画の場合には前計画も見比べなければ変更点が分からないことや計画策定に際し審議会で議論されている内容は議事録を読んで初めて理解できることに気づきました。

さらに、北広島市議会は定数二二名で会派制を採用していますが、ポスト配分などは主婦の日常からするとかけ離れていて、いきなり「幹事長ね」と言われて驚きましたし、予算書の数値が全て千円単位で、家計簿のような円単位ではないため、

慣れてくるまで戸惑いました。

他方で、女性だと選挙や議員活動に苦労があるのでは、と聞かれることがあります。北広島市議会には私も含め六名の女性議員がおり、ハラスメント的なことは少ないですし、女性同士団結することもありますのでやりやすい環境でスタートを切らせてもらいました。

議員になって以降の北広島市の様子

議員となって以降の北広島市の動きですが、ニュースでもご存じのとおり「エスコンフィールドHOKKAIDO」（ボールパーク構想）で注目いただき、現在はこれに伴う周辺道路の整備や上下水道といったインフラ整備のほか、北広島駅西口の活性化事業も公募型プロポーザル方式（編集部注・業者の参加を公示により広く募集し、技術提案書や企画提案書などにより契約締結交渉者を選定する方式）でスタートし、ボールパークの命名権を購入した日本エスコンが取り組んでいます。ただ、道路整備は森を切り開いて新しく作るため、環境保護の観点から大変懸念しているところです。

また、行政からはボールパーク開業後に住民の転入が増え、様々な企業が進出してくるため、財政的には問題がないと説明を受けていますが、今のところインフラ整備を中心に膨大な予算が投じられている状況もあり、財政に対する懸念もしているところですよ。

市民目線で言えば、まちが変わることや新球場に対する歓迎や期待の声がある一方で、「ボールパーク関連の事業にお金を使いすぎ」という指摘もあります。昨年の大雪をうけ、「あの時、除雪がなかなか来なかつたのはボールパーク関連以外の予算を削つたせいではないか」など、行政サービスの低下を心配する声があるのも事実です。

3年間で取り組んできたこと

この三年間では、一般質問ができる機会にはすべて立つよう取り組んでいますし、二〇二二年の第一回定例会では代表質問にも立たせてもらいました。質問のテーマは食や環境、子どもに関するものが多いのですが、コロナに関する質問などその時々で問題意識を持ったことを質問するように心がけています。

委員会ですが、前半は建設文教常任委員会に所属していました。ここでは建設や教育、経済対策を取り扱うところで、コロナの補助金などもここで担当していました。今所属しているのは民生常任委員会です。福祉や保育所、ごみ処理や公衆衛生に関わることを議論しています。

二〇二四年度からごみ処理が広域化して焼却処理となりますので、ごみの分別や収集日の変更、有料ごみ袋の価格改定が予定されており、その取り組みをしたいと思ひ希望を出しました。また当選以来、議会広報委員会も担当しており、

議会だよりのリニューアルにも関わりました。読んでもらえる議会だよりを目指して文字を少なくしたほか、予算が限られてできないと思つていたカラー化についても対応してくれるところが見つかつたため、実施に踏みきりました。

地域の中での取り組み

ここからは、議会を離れて地域ではどのような取り組みをしているかについてお話しします。二〇二二年には市民団体が実施環境に関する市民アンケートの収集に取り組みました。先ほどお話ししたように、ボールパークのアクセス道路（市道）が自然を切り開いて整備されます。アンケート結果では、市道の建設について、「知らなかつた」「このアンケートで知つた」と回答した市民が七八%にもなつたため、行政としてもっと丁寧に市民に向けて説明するべきではないかと市長に要望しました。その後、専門家のアドバイザーを受け、集計結果の詳細な分析を行い、その結果について二〇二二年三月に報告会を行いました。

また、三年前から市内を流れる輪厚川で清掃活動や生き物観察をするフィールドワークも開催しています。最初は自分たちだけという少ない人数でスタートしましたが、だんだんと参加者が増え認知されている状況です。このイベントで出会つた親子から、コロナ禍で子どもたちはマスク生活が続いている上、アルコール消毒で肌荒れするな

ど、学校での感染予防対策に不安があるので請願を出したいという相談を受けました。

請願を出すにあたり、保護者たちはまず実態把握から始めました。LINEなどを使い、非接触による方法も取り入れてアンケートを実施し五七件の回答を得ました。この結果を分析した上で国の通知や最新の医学的見地も踏まえて請願書を作成し、同じ会派の鶴谷さとみ議員が紹介議員となつて提出、総意を持つて採択となりました。

今後どうしていくか

生活者、当事者の視点を議会に届けることが私の役目だと思っています。また、開発で傷ついた自然の回復を見届けていくことも必要です。ポールパークアクセス道路は市道だけではなく、道路の整備もあり、こちらは工事開始前に希少種の移植が行われ、土や石の埋め戻しの方法など専門家による助言が行われています。工事終了後、市道・道路それぞれについて現場の状況も注視していきたいと思っています。

また、今はポールパークでまちが変わるとの期待感が最高潮に達していると思います。けれども、開業すれば渋滞など環境の悪化は間違いなくあるでしょうから、こうした「新しい日常」にシフトした場合、市民はどう思うかと言った問題も浮上してくると思っています。

さらに、ポールパーク開業や駅前には新しいマ

ンションが建つ予定となっていることから、行政は人口が増える予測を立てていますが、日本全体が人口減少社会の中で、少しだけ人口減少が先送りされたに過ぎないと危機感を持っていることもあり、今月の定例会では将来的に赤字が予想されている上下水道の質問を予定しています。

こんな人が議員になってほしい

やはり、若い人や新しい視点を持った人たちに議会だけではなく、市政に興味を持つて関わってほしいと考えています。私が初当選した時は三九歳で一番若い議員だったこともあって、先輩議員からは会派問わず期待していただいている感があり、議会全体で新人を見守つて育てていこうという雰囲気を感じていたので、スムーズに議員活動をスタートすることができました。

しかしながら、そう簡単に立候補はできないという市民も多いと思います。議会では陳情や請願、行政も含めればパブリックコメント、審議会委員への公募、市民アンケートなど様々な参画方法が用意されており、こうした制度で市民が議会や行政に参画し、政策づくりや提案をしながら市政に関わつていく方法もあることを知ることができました。また、議員は市民が入手できない情報を得て活動していると思われがちですが、私の場合、インプットする情報の八割はすでに公開されている情報で、あとの二割は調査活動や職員へのヒアリン

グで得られた情報です。公開されている情報をもとに発言することで、情報源を明言することができます。北広島市の場合、市民アンケートの自由記述も公開していますので、そうしたところから一般質問を考えることもあります。

そして、議員をめざす人に私が一番言いたいのは、自分を大切にしながら活動してほしいということです。議員は好き嫌いにさらされる仕事です。選挙では厳しい意見もいただきますし、党派で考える有権者が多いので、人格の否定とまでは言えない部分でいろいろな声に接することになります。さらに、候補予定者となれば過剰な期待を受ける場合があります。それに応えたいとは思いつつも、冒頭で話したようにどういった方向で何に頑張ればいいのか分からないところもあります。なので、まずは自分の身体と心を大切にしながら、自分自身が安心していられる場所を確保した上での活動をしてほしいと思います。

情報発信については、小さなことでも確認してから発信することが己の身を守ると感じています。過激ではないだろうかと思う言葉はなるべくSNSで発信しないように心がけています。それはSNS以外にも、委員会や一般質問など、議事録が残る形で議員としてきちんと意思表示する機会があるからです。そうした場で自分の考えや想いを伝えることが基本だと考えています。今日はお話を聞いていただきありがとうございました。

へささき ゆりか

女性の働きやすい議会づくり

宮 武 祥 子

登別市議会議員

1 登別市議会における女性の政治参加の現状

はじめまして、登別市議会議員の宮武祥子と申します。短い時間ですがよろしくお願いたします。これから議員をめざす人の講座ということで、他の報告者のお話を聞きながら報告のタイトルは間違っていたかもと反省しているところです。そのタイトルですが、私は女性議員として活動しているため、「女性」としましたが、皆さんは「自分」と置き換えてもらえれば幸いです。

まず簡単な自己紹介をしたいと思います。登別市出身の三五歳です。高校まで登別在住で、大学時代は江別在住でした。二〇一九年に結婚し、二〇二二年に出産しました。議員としては現在二期目で、一期目（二〇一六年）は補欠選挙で、他の立候補者もいなかったため無投票当選でした。その他、プロスノーボーダーとスポーツトレーナーも兼業しており、ずっとスポーツをやっている好きなので、それを専門と称して活動しています。登別市議会について、議員の平均年齢は五四歳

です。市議会議長の二〇二〇年データによると全国平均は五九・三歳ですから、わずかに若い状況です。女性議員割合は、内閣府の二〇二一年データによると全国平均が一七・五%、道内平均は一三・八%ですが、登別市議会は定数一六名中、女性議員は三名で割合は一八・八%ということで、どちらの平均もわずかに超えている状況です。

2 働きやすい議会にむけた取り組み

ここからは、女性も含め働きやすい環境づくりに向け、登別市議会では何を取り組んだかをお話したいと思います。私が初当選した時は結婚もしていなかったのですが、議会では当然のように「宮武祥子」と名乗っていました。先ほど話したように結婚し、戸籍上は菅原になったのですが、「菅原祥子」と言っても誰も分かりませんし、自分自身の仕事は宮武でしていて、今後もその名前で続けていこうと思っていたこともあり、議会事務局に旧姓使用が可能か相談しました。これについては、議長がすぐに対応してくれて、旧姓で議会活動を続けることができるようになりました。

そして、二〇二〇年三月には産休制度ができました。前年の二〇一九年に各地方議会が議会運営の規則を定める際に参考に「標準会議規則」を改正され、産休制度を規定したこともあり、登別市議会でも制度が導入されました。皆さんご存じかと思いますが、地方議会議員は労働基準法が適用されない特別職地方公務員ということもあって、これまで女性議員の産休は議会を欠席している扱いとなっていました。産休制度導入によって本会議や委員会などは欠席扱いにはならなくなりました。

制度では産前産後八週間となっています。私は今年一月に出産していますが、体調が良かったこともあって前年の一二月定例会は休まず出席していました。産後は八週間しっかり休み、三月の定例会が終了した翌日から議員として復帰しています。

また、私は議会運営委員会に所属していますが、この中には議会基本条例を見直しする部会、問題となりがちな政務活動費をクリアにすべく審査する部会のほか、働きやすい議会づくりを行うICT部会があり、私はICT部会に入りました。部会では、委員会のオンライン参加の検討や立ち上げに時間がかかって使い物にならなかった二〇二〇年近く前のパソコンを最新の物に入れ替えるための根拠や予算要求などに関りました。そうした結果、システムが一新され、二〇二一年一二月に条例を改正してオンライン委員会がスタートしまし

た。

このような様々な議会改革の取り組みを行ったことで、早稲田大学マニフェスト研究所が行う二〇二一年度全国議会改革ランキングでは二位となっております。

3 オンライン委員会の導入

そのオンライン委員会について、少しお話ししたいと思います。他議会で取り組みを見てみると、コロナのような感染症が広がって議会に行けないからオンラインで参加しますと規定するところが多いのですが、これから先を考えれば何が起るか分かりません。また、最近は多様性という言葉をよく見聞きすると思いますが、登別市議会ではどんな人でも議員になれるようにして、どんな状況でも会議に出ることが出来る状況にすべきではないか、という声もあつたことから①妊娠・出産、②子育て、③介護、④病気・入院、⑤災害の五つを対象としました。ただし、原則として出席できるのであれば委員会室に行くというルールになっています。

会場の皆さんには議会運営委員会の写真をお見せしていますが、モニターに映っているのは私です。今までは母親が近所に住んでいるという恵まれた環境もあつて、子どもを母親に預けて出席していたのですが、このときは母親も不在だったため、利用条件である②の子育てに該当したこと、

オンラインの制度導入を考えた側から使い勝手を手体験してみようと思ひ、オンラインで委員会に参加してみました。確かに、委員会室に行かなくていいので便利なのですが、当日は子どもが泣き止まず、委員会室の声が何も聞こえなかったという課題も見えてきました。

4 これから取り組み、そして議員をめざす人へのメッセージ

今、道の駅など多くの公共施設には、障がい者も子育て中の人でも使える多目的トイレがありますが、子育てをするようになって登別市議会にはオムツ交換や授乳室が全くないことに気づきました。今後、男女問わず子育て世代の議員が誕生してくることを考えれば、絶対に必要な設備です。この改善が大きな課題と考えています。

保育環境も十分ではありません。先日、千葉県取手市議会の議会改革について視察してきましたが、議会が自分たちのできる範囲ではあります。子育て世代の議員が働ける様々な取り組みをしていました。取手市議会では女性議員が妊娠・出産をし、同僚の女性議員が協力し合いながら議員活動を続けていたことがきっかけとなり、保育環境を整えたと伺いました。私も産休明けの時点で保育所に子どもを入れて復帰しようと考えていたのですが、「四月までは入れません」と言われ、これまで何度も聞いていた「待機児童」を実体験

しました。子育てするようになって、議会だけではなく、市としても大きな課題である、と気づかされたところです。

これから議員をめざす人へ私が言いたいのは、自分の努力次第でいろいろ実現できる楽しい仕事だと言うことです。何かやりたいことがあるから議員に立候補するのでしょうか、それを理解してくれる人、同じ想いを持っている人は必ずいます。もちろん、議会なので合意形成は必要ですが、不便なことや問題点を声に出していけば賛同してくれる市民や議員がいるはずですし、自分が動くことで市民はもちろん、自分自身も暮らしやすい環境を作ることができます。

そして、議員になると議員同士だけではなく市民をはじめ様々な人となりができるのも魅力です。誰かがやりたいことに対し、人というバトンをつないで実現していく。こうした部分も議員としてのやりがいや面白さを感じています。人とのつながりと言えば、先ほど、小暮さんが兼業の話をしていました。私も賛成です。自分の専門性を高めるために議員として話を聞かせてほしいというのと、働きながら何気なく聞く話は、相手も構えていませんから、ざつとばらんに話してくれます。こうしたことから兼業は大事なことだと感じています。

選挙についても一言。昔は「一〇〇〇人の後援会名簿があれば票はその半分だと思え」と言われていたようですが、私が二期目に立候補したとき、

後援会はありませんでしたし、会社に所属しているわけでもありませんでした。知り合いを通じてかたちだけの後援会名簿は作成しましたが、実際に投票してくれた数は後援会に入ってくれた人の人数より投票数の方が多かった。選挙を一回しか経験していないので断言はできませんが、これからの選挙は今までのやり方は通用しないのではないか、とも感じています。

自治講座 第2部「議員と参加者の交流」

参加者と講師・議員との意見交換

渡辺 第1部と第2部の講義・報告を聞いて感じたのは、二〇〇六年の栗山町議会基本条例制定以降、自治体議会は変わってきたということです。ただ、議会に対する市民参加や合議制機関としての役割、議会の情報公開については課題が残っているように思います。

加えて、新型コロナウイルスの感染拡大が議会活動を見つめ直すきっかけになったと改めて感じました。栗山町議会基本条例が制定された時の議会事務局長だった中尾さんは常々、「議員個人ではなく、議会として塊となつて対応していくことが重要」とおっしゃっていたことを今もなお鮮明に記憶していますが、正にコロナ禍では議会としてのまとまった行動が必要だったと思っています。また、第2部では報告者が全員女性ということ

繰り返しのようになりませんが、信頼できる人、一緒にいて楽しいと思える人で選挙を戦うことが重要です。選挙前はつらいことも多いですが、選挙戦に入つてしまえばお祭りのような雰囲気です。日が過ぎていきますので、みんなでわいわいやる。それが選挙を楽しむコツと思っています。今日はありがとうございます。

へみやたけ しょうこ

もあり、選挙活動への挑戦や市民的基盤の重要性、女性が議会へ進出する環境整備の課題などが浮かび上がりました。

ここからは第1部、第2部の講師への質問や、議員になつている方は一期目ということですので、議会について疑問に思っていることなど、なんでも構いませんので自由に意見交換してください。

支持母体はないが立候補したい

参加者の質問 住んでいるまちを良くしようという想いで来年の統一地方選挙に立候補を考えていますが、私には支持母体がありません。支持しただけの仲間はいませんが、みんな素人なのでこれからどう動いていけばいいのか分かりませ

ん。市や道の選挙管理委員会へ相談に行くのですが、協力的ではありませんし、公職選挙法に関することしかアドバイスしてくれず、困っています。また、今日の報告者は皆さん若い方ばかりですが、私のような六〇歳を過ぎても立候補し、議員活動をしたいと考えていますが、どうすればいいのでしょうか。

宮武 私も組織はなく立候補しましたが、好き嫌いは別として、まず自分の名前と顔をどうしたら知ってもらえるかを考えました。結論は四ヶ月間くらい毎朝、同じ場所に立ち続けました。最初は誰も目を合わせてくれませんが、続けていくと通る人たちの視線を感じるようになり、最後は手を振ってくれる人もでてきました。

この活動がどれだけ票に結びついたか分かりませんが、選挙ポスターを見て「あの人だ」と思ってくれたはず。まず、名前と顔を覚えてもらうことを根気よく続けることが大事なのかなと感じています。

佐々木 私は市民ネットワーク北海道という政治団体の公認候補として立候補したので、いわゆる組織型の古いスタイルで選挙運動をしました。蓋を開けてみると一五二票でしたので、思いがけない期待票もあつたのだと思います。

選挙戦で印象的だったのは、公園などにあるポスター掲示場の横で人ひとり見あたらず誰も聞いていないだろうな、と思いながら街頭演説していると、意外と聞いている市民がいたりして、「あ

「あなたの話が良かったから入れるわ」と突然言われたこともありましたね。選挙はコミュニケーションが大事だと感じました。

小暮 私も質問者と同じで立候補しようと思っても、どこに何を聞いていいかわかりませんでした。幸いなことに議会モニターをしていたので、先輩議員たちにどういう手順で進めていいか聞きました。自分が、それによって違うので、自分なりにいいところ取りをしていきました。もし、本気で議員のなり手不足を考えるとあれば、議会として立候補を検討している人に向けた事前説明会を開催しやすくらいのことがあってもいいのではないかと思います。

参加者 一期目です。私も組織なし、家族にも応援されず、一人でポスター貼りから始め、辻立ちだけの選挙戦を行いました。次の選挙では新しい人にたくさん入ってもらい、構成を変えたいなと考えているので、SNSを使って議会や議員の仕事内容の説明や立候補の仕方などをアドバイスしています。選挙になればライブですが、何も知らないから立候補できないという環境はなくしていく必要があると思っています。

宮武 あと、周囲に「立候補します」と宣言した方がいいですね。宣言することで周りの人から「手伝うよ」などの声をいただき、支援の輪が広がっていくからです。また、私もそうですが、議員の中には「仲間になってくれる人はいないだろうか」とアンテナを張っている人も多い。立候補

を公言することで、そういう人たちがサポートに入ってくれる可能性はあると思います。

無所属で立候補することに対する不安

参加者の質問 生活困窮者支援に関わっていて、自治体のやり方に疑問を感じています。議員になってやり方を変えようと思えば、ある政党の候補者公募で内定をもらいました。ところが、出るところがないと言われてしまいました。でも、今日、大きな支援やお金がなくても議員になって活動している皆さんの話を聞いて、自分のやりたいようにできると分かりましたので、無所属でも立候補しようと思いました。

渡辺 例えば、札幌市議会の場合、議員は六八人で党派制を採用しています。栗山町議会や芽室町議会でも議会基本条例に基づき、個々の議員の賛否を明らかにしていますが、党派の場合はトップが賛成と言えは賛成となってしまう場合があり、党派内の議員の賛否意思は分からないところがあります。だからこそ、立候補者の明確な意思表示は選挙という試験をパスする上で重要な要素だと感じています。そういう意思を持って活動することが大事なのだと思います。

参加者 一期目です。人口一八〇〇人ほどの小さなまちの議員なので、札幌などと比べるとできませんが、自分の思想や世の中がこうなっているほしいというのを全面に出して、動きだそうとい

うことはいいポジションにいますね。選挙スタイルも「こうでなければならぬ」というのはありません。私は選挙管理委員会の立候補者説明会の前日に決心して、突然参加したのでまちの人たちの話題になりました。確かに準備は必要ではありませんが、準備がなくてもできるということもあるとアドバイスしたいです。

ただ、公職選挙法の遵守は最重要です。お金については、先ほど小暮さんが一〇万円選挙をしたと言っていました。私は五万円で済みましたので、パターンにとらわれないで、自由なかたちで進めていくことも必要なのではないでしょうか。

古い体質の議会に挑戦しようと思っているが

参加者の質問 体質の古い議員がいる議会に立候補しようと思っています。周りから「同じ地域に住む先輩議員に挨拶したほうがよい」とアドバイスをもらいました。ただ、その方にアポイントすら取れず、雰囲気としては「出るなら勝手にどうぞ」という状況です。

今日の講師の方の話を聞くと、開かれた議会のところが多く、そうした古い体質の議員がいないように感じましたが、実際は違うのでしょうか。こうした古い体質の議会だと当選したとしても、ヤジなどいろいろな妨害があつて透明性のある議論ができないのではないかと考えてしまいます。

宮武 登別市議会はヤジを飛ばす人もいません

し、紳士的な方が多いですね。

佐々木 議員になれば一般質問をしたいと思います。そのときには一生に活動している仲間に傍聴してもらい、「味方がいるよ」ということをアピールすることが大切ですね。

藤本 栗山町議会にはそういう人はいません。やはり、日本で初めて議会基本条例を作った議会ですから、条例が消えることは絶対ありません。視察者から「あんなに縛りのある条例としていれだ」と士気が下がり、運用が後退していくことはないのか」とよく質問を受けます。

ただ、日本で初めてという使命がありますから、栗山町議会では当選後すぐの研修で「議会基本条例は日本初の条例であり、規定されている取り組みが後退することはあり得ない」たたき込まれますし、そもそも新人もベテランも関係ありません。なので、二〇一九年に当選した新人三人がいちばんのびのびと議員活動しています。

渡辺 確かに、栗山町は多くの改革の積み重ねの上、議会が一丸となって議会基本条例を制定しました。私はよく「継続」と「継承」という言い方をしますが、栗山町の場合、「継続」は制度をよりよいものしながらこれまで維持してきたこと、「継走」は人が変わっても受け継がれていく。今、藤本議員がお話された理念の高いものが受け継がれ、議員活動にも反映していると感じました。

議会改革の観点からひびく

神原 今の話につながるか分からないのですが、議会改革の観点から言えば、進む可能性を強く持っているところと、なかなか旧態依然として進まないところがあります。どういうところが進んでいないかというところと大都市なんですよ。スタートから見ていると町村や小さな市とは議会改革が進むところが多い。

これは党派の影響がすごく作用しています。大きいところはほとんどが会派を組んでいて、その会派も政党会派が主です。そして札幌市議会を見れば分かるように、会派中心の議会運営になっていて、会派間の関係で物事が決まっていく。そうした議会の会派は所属議員に対する拘束力も強いわけです。

こうなると、会派間の合意形成は小さな議会とは違ってくる。規模の小さな市の場合、会派はあっても強い統制はないので会派間の議員の横断的な活動が柔軟にできる。そういうところは議会改革が進めやすいですね。登別市議会はどちらかというとこの部類に入ると思います。

町村になると、会派制をとっていないところがほとんどで無所属議会ですから、党派的な拘束はありませんので、議論もしやすいし合意形成もしやすい。こうした構造になっているので、今後の議会改革のあり方として、議会活動の中に会派を

どう位置づけ直すか、ということが大きなテーマの一つになると思います。

先ほどから出ている話を聞くと、党派は関係なく無所属で立候補することを考えていて、その場合、どのような進め方があるのかと言った悩みを持っている方が多いのだと思います。党派的な影響力が小さいところ、例えば小さなまちで、無所属で立候補する場合、二つの方法あります。

小規模自治体から無所属で立候補するには

神原 小さな自治体では、地域毎に事実上の地区代表として議員を出すことがあります。その人が退いた場合は、またその地域から人を見つけて出す。実質的な地域割りのかたちで次の人が出てくるので、そのルートに乗れば小さなまちでも当選し議員になることができるでしょう。これが一つ目です。

二つ目は、こうした地域推薦型になれずに無所属で出る場合です。地域票は入りませんが、勝つためには自治体全域から票を集めるしかありません。全域に目を向けると、支持してくれそうな人はあちこちにいると思います。そうした支持者を見つけて、仲間を作っていく。少数でもかたちを作って表に出れば、活動もしやすくなりますし、広げることもできます。全域型の選挙をめざすことが大事なのではないかと思えますね。

渡辺 確かに自治体の規模や人間関係の濃さ薄

さなどもありますので、今の話が参考にできるかわかりませんが、一つの考え方や方法としては大事な進め方かもしれませんね。

参加者 二〇一七年に三八歳で初当選して、現在は四二歳です。人口が二〇〇〇人くらいの自治体で、私が住んでいる地域にはすでに議員になっている人がいて、周囲からは無謀だと言われながら立候補しました。

先ほど、古い体質の議員とどう戦うべきかという話がありましたが、まずは選挙に当選することが重要です。宮武議員が四ヶ月間立ち続けたという話を聞いてすごいなと思いましたが、やっぱり「あの人頑張っている」と思わせることが大切だと思います。私も選挙戦は後援会無しですし、費用も一〇万円掛けずに、自分で車を運転しながら、マイクを持って、自分の住む地域外も巡って票をいただき当選したと思っています。

私の議会には古い体質の議員はいませんが、年齢がかなり上の議員との間で議論することは当然あります。いろいろな議員と対峙することで自分のモチベーションも保てる一面もあるので、先ほどの質問者の方には、まず当選してもらい議会を変えてもらいたいですね。

神原 ちなみに、下川町議会基本条例では、条文に議員のめざす人を発掘して、なり手不足対策を議会として取り組むと規定されていますが、実際はどうなのでしょう。

議会として立候補しやすい場の提供が必要

春日 議会基本条例を制定するにあたって後発ということもあり、第一六条で「議会は、町民が議員になって活動することに意欲をもち、また議員として活動しやすい議会環境の整備に努めます」との規定を設けました。

議員報酬月額一七万五千円だけでは生活は難しいですが、立候補できる場づくりをしなければなりません。今、議長から諮問を受け、特別委員会を設置して報酬見直しの議論を行っています。

神原 以前、浦幌町議会では立候補する人に対し、選挙に関わる技術的な部分の情報を公開する取り組みをしていました。二〇一八年の講座に参加していた方は、その取り組みを利用し実際に立候補して議員になっています。議会が立候補したい人を、情報とか技術の面でサポートする取り組みにしなければならぬのだらうと思いますね。

渡辺 浦幌町の補足ですが、二〇一五年の選挙が定数割れしたことで、議会全体が相当危機意識を持って取り組んだ（二〇一九年四月の選挙の一年前、半年前にかけて、町内在住者、今後の町内在住予定者を対象に、個人個別研修会を実施）と聞いていますし、道外でも議会が立候補しやすい環境づくりを整備しているところがあります。立候補しようとする人たちへのハードルを下げ、なり手不足解消につなげていくためにも、事前勉強ができる情報収集の機会を設けるべきだと思います。

ますが、都市部の議会ではなり手不足問題が露呈していませんから、そういう動きにはなりにくいかもしれません。

予定の時間がきましたので、これで終了いたします。ありがとうございました。

本稿は、二〇二二年九月一〇日に開催した「自治体議員をめざす人の自治講座Part3」の第一部「議会とはどんなところか?」、第二部「議員と参加者の交流」をまとめたものです。
文責・編集部